



新型コロナウイルス感染拡大～報道と人権を考える～

現在の熊本県における新型コロナウイルスの感染状況は、第4波としてとらえられ、「まん延防止等重点措置」が適用されることになったことは多くの報道でご存じのことと思います。充分気をつけていても感染を100%防ぐことはできませんが、私自身も、できる限りの感染対策をするという思いを強くしています。



このようにテレビや新聞報道は間違いなく、私たちの感染防止に向けての注意や関心を高めています。しかし、報道が現実の全てを取りあげているのではなく、間違いなく報道に取りあげられない事実や少数派の人たちの思いや考えがあります。例えばオリンピック・パラリンピック東京大会の可否については「中止すべき」との意見が大きく報道されていますが、逆の「行うべきである」という意見や思いがあることは間違いのないことです。

私たちは、報道されない人たちや少数派の人たちの思いや考えを思いやるのが大切なのではないかと思います。そのためには、「もし自分がその立場だったら」と想像することが第1歩になります。新型コロナウイルスは確かに恐ろしいものです。だからと言って感染された方や濃厚接触者とされた方を差別することは許されないことです。感染したのが「もし自分だったら」「もし自分の子だったら」と自分の身に引き寄せて考えて配慮することが大切だと考えます。情報や報道が差別を生むのではありません、差別心は私たちの心に巣くうということを忘れないようにしたいものです。

感謝の気持ちを大切に

小国小学校に赴任して、ちょっと驚いたことがあります。それは地域の皆様の、「学校を支援したい。」「子供たちの成長を見守りたい。」という思いの強さです。それは本校ホームページ（この学校便りの先頭にあるのはホームページへのリンクです。スマートフォンやタブレット端末のカメラで読み取るとホームページが開きます。）をご覧いただくとわかるのですが、たくさんの方々に支援をしていただいています。草花の苗をいただいたり、水田を貸していただいたり、登下校の様子を見守っていただいたり、学習の中にゲストティーチャーとして参加していただいたり、挙げていくときりがなくたくさんの方々の支援をいただいています。そして、学校の施設設備の素晴らしさも、渡邊町長様をはじめとした町民の皆様の教育に対する付託の現れなのだろうと勝手に想像しているところです。

先日、各御家庭にタブレット端末持ち帰りに向けた説明と同意書を配布させていただきました。タブレット端末につきましては国のGIGAスクール構想に沿って小国町が予算化していただき、すべての児童に1台の端末が配備されています。この環境は日本のスタンダードであり、ある面、当たり前な環境なのかもしれません。しかしながら子どもたちには、当たり前な環境にも感謝の気持ちを持ってほしいと思います。保護者とともにタブレット端末の使用方法を確認することが、感謝の意持ちを感じる一つの機会になるといいなあと思っています。

